

同推協だより

No.136

2023年 12月発行
神前地区同和教育推進協議会
Email:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp



神前地区同和教育推進協議会 設立 50 周年によせて

1973年に発足した神前同推協は、2023年（令和5年）で設立50周年を迎えました。そして、同推協啓発委員は、1993年（平成5年）から、各町、各団体、公募等で選ばれています。

発足当時は20名程度でしたが、これまでの取り組みによって現在では180名ほどに増えました。この30年で啓発委員を経験された方々は、のべ1000名以上になっています。

この間に、三重県や四日市市では「人権条例」ができ、「人権尊重の町・部落差別のない町づくり」に取り組んでいるにもかかわらず、未だに日常に差別があります。つまり、条例だけでは差別をなくすことはできないのです。

私たち啓発委員は、頭では「差別はいけない」と分かっている、「時間がない」「ほかにやりたいことがある」等言い訳をして、行動できなくなっているように思います。

私たち啓発委員は、差別発言の傍観者ではなく、差別をなくす一人になるために、自分自身と向き合い、時間も少し作り、何をすべきかを考えながら、みんなで「住みよい 住みたい 人権のまち神前」を目指して活動していきたいと思えます。

最近「おかしいなあ」「どうしてかなあ」と思ったこと④

新型コロナウイルスの影響で、数年前から私たちの生活が一変したと思います。いつ、どこでもマスクの着用が必須となり、不自由な生活を送ることとなりました。現在では、マスクの着用などは緩和されましたが、完全に元の生活に戻ることは不可能かなと思います。

私自身、コロナに感染すると「怖いなあ。」と思うことが2つありました。

一つ目は、コロナ自体が未知のウイルスということで、感染するとどうなるかわからないという怖さでした。

二つ目は、感染により「いじめ」や「差別」を受けるのではないかとという怖さでした。特に初期の段階では、職場や地域で一番に感染したら、どうなるか考えると嫌でした。幸い、職場でも地域でも「いじめ」も「差別」もなく今日に至っています。それは、周りの方々が「コロナに負けなかった。」ということだと思います。



神前小 PTA 村木哲也

カンちゃんカンざきとざきちゃんカンざきで「神前ちゃん」

人権フェスタかんざきで発表されたカンちゃんの友だち、ざきちゃんがこれから登場します。今まで一人でがんばってきた「カンちゃん」ですが、これからは仲の良い友達「ざきちゃん」と力を合わせて、神前同推協を盛り立てていきます。

みなさんも「カンちゃん」「ざきちゃん」を見かけたら神前同推協の活動を思い出して、いっしょに差別をなくす行動を起こしてくださいね。



カンちゃん



ざきちゃん

神前同推協結成 50 周年記念講演会

「私がこの世に生まれる奇跡」

10月1日（日）に助産師の林みち子さんによる講演会「私がこの世に生まれる奇跡」を開催しました。

「あなたの体と心は、この世でたった一つの宝物」「自分の価値観という狭い範囲で物事を決めない」など、軽快なテンポでお話いただきました。

ご自分が家族を亡くされたことをきっかけに助産師というお仕事に着かれたこと、「命とは自分が持っている時間」のこと、「手は、人をたたいたりするためのものではなく、誰かを抱きしめるためのもの」ということ、「ふれる“は、人間が生まれた瞬間から死ぬ直前までである感覚だ」ということ、だから「人はいつまでも抱きしめられたい」というお話は、参加した誰もが共感できる内容だったのではないのでしょうか。



そして「いじめてくる人への仕返しは、笑顔でいること」「言葉は人間だけが持つもの。人を幸せにすることも殺すこともできる」「お互いにしなくてはならないのは、期待ではなく感謝」等のお話は、私たちの生き方に結びつくものでした。

また、健康に過ごすためのポイントとして「がんばりすぎると病気になる」「泣く・笑う・朝日を浴びる・運動する・スキンシップするが大切」とのことでした。

最後に、「欠けている部分を攻撃するのは、人間の脳の癖」であり、「誰かに“助けて”と言えることが人間の自立であること」、「自分が機嫌よく過ごすことが、自分にとって家族にとっても一番大切」で、「周りに伝染させてほしいものは“幸せ＝笑顔”」とのお話でした。

「独りぼっちを作らない」「どんな命も一つ限り、一回限り」との内容は、神前地区を目指す「住みよい 住みたい 人権のまち 神前」と一致するもので、多くの参加者から講評でした。

【参加者のアンケートから】

・「自分の大切なことが、相手の大切なことではないかもしれない。」「自分の当たり前が、他人の当たり前ではないかもしれない。」「みんなと違うことは、何も変じゃない。」いろいろな言葉があふれていた講演会でした。「自分を大切にすること」「人を大切にすること」「みんなの命が大切なこと」面白くおかしく、楽しく聞かせていただきました。



・テンポの良いお話しでメモを取りたい言葉ばかりでした。自分の子どもを思い出し、ついよその子と比べてきたことを反省しました。「個性があって当たり前。」分かっているのに人と違っていると不安になる、もう一人の自分の考え方を見つめなおし、少しでも笑ってすごしたいと思えます。たくさんの温かい言葉をありがとうございました。毎日の生活の中で思い出し、自分を大切にしていきたいと思えます。子どもの事、いとおしいと思えるような気がします。

・林さんの講演の中で「TTP」「TKP」の話がありました。子ども達は大人の姿を本当によく見ていると思います。子どもの前では「正しい行動」をしなくてはと思います。しかし、子どもの自尊心の低さもまた、大人を見ているということは考えたことがありませんでした。私は「自分が好き」とすぐには言えません。それでは子どももまた自分を好きになってくれないかもしれません。自分自身が自分のことを認めていきたいと思えます。

*当日の講演をお聞きになりたい方は、DVDを貸出します。（神前団体事務局までご連絡ください）

『地区別・団体別懇談会』今年も開催中です

今年はコロナ感染が収まり、各地区、各団体で積極的に「懇談会」を開催してもらっています。それぞれの懇談会の様子や出席した方の感想が寄せられました。ほんの一部ですが掲載します。

【町別懇談会参加者より】

- 久しぶりに懇談会に参加しました。日常的に差別について考えることはありませんが、こうやって時々話すことも大切なことだと思いました。

「誰もが差別をしようと思ってするのではなく、日常の発言の中に「偏見」や「無関心」等の差別意識がついてしまうと思うのです。いつの間にか噂話を信じたり、地区名を言いにくい場面があったりと、無意識のうちに差別していることもあると思うのです。やはり、正しい知識を知ることや部落差別を頭の隅っこに入れておいて、何かおかしいことがあったときに「それは違うよ。」とおかしいことを止めることが、差別をなくすことにつながると思って、まずは自分から言うことにする。」という方の話を聞いたことが良かったです。



- 私の参加した懇談会で、「差別なんか関係ないよ。」という方がいました。「どういうことなのか？」と思い、もう少し詳しく話を聞きました。

「自分にとっては、同和地区ということで差別をするのはおかしいとはっきり言うことができる。」との考えから「無関心からの『関係ない』ではなく、その方が同和地区住民とか出身とかが、自分にとって関係ないことです。」と話されました。それから、「差別発言をする人に対しては、『それは間違っている。おかしい。』というよ。」と言われました。今まで多くの懇談会では「そう思う。」「そうしたい。」「そうしていきたい。」という言葉が多かった中で、言い切られた言葉にすごく安心した自分がいました。

- 今回参加した懇談会で一番関心があったのは「男女差別」に関することでした。参加者より「夫から『おまえ』と呼ばれることに差別意識を感じる。」という意見があり、それを聞いていた男性が「自分もそう呼んでいる。気づかなかった。」という反省の気づきがあったようでした。さらに、家事育児は女性の仕事として決めつけていた意識が「おかしいのではないか」という意見も出始めたことは、一歩前進という感じがしました。



【団体別懇談会参加者より】

- コロナ禍も少しずつ落ち着きを見せ始めた今年度は、団体の懇談会に参加しました。その中で私が感じたことは、若い世代の方々の感覚と私達世代（50代）の感覚が違うということです。これは、どちらが良いとか悪いとかというのではなく、50代以上の私たちが、経験していない時代背景・教育内容で育った人たちにとっては、それが当たり前のことなのだと思います。子どものころから携帯電話が身近にある中で育った人たちと自宅の電話がまだ普及中だった私たちでは、当全体験が違います。人権感覚という言葉さえ知らずに育った私は、今年の懇談会に参加して「自分の体験だけを基準にしては、若い人たちと一緒に『差別をなくす話し合い』はできない。」と感じました。若い世代の人たちから教えてもらうこともたくさんあります。また来年も若い世代の人が多い団体の懇談会に参加して、お互いの経験や情報を交換しながら差別をなくす話ができることを楽しみにしています。

- 同和問題というと、自分からは遠い話のような気がしましたが、噂話や陰口など、自分や家族にも起こりうるできごとだと考えると、自分事として考え、「差別をなくす」ために何かしなければならぬと感じました。その中で、参加者の世代が違うので、今の若い世代の方々の悩み（例えばネット関連等）は経験がないので、聞かせてもらいながら考えました。話していると、その方の問題が、当事者にとって解決したい問題であるにもかかわらず、周りから軽く捉えられている場合が多いようで、「どうすれば他人事の問題が、自分事として考えることができるようになる。」のかが、人権問題全般の課題であると感じました。

11月5日 地区文化祭 人権コーナー開催



11月5日（日）、4年ぶりに神前地区文化祭が、神前小学校を中心に開催され、地区同推協も「人権コーナー」を開催することができました。当日は、「同推協の歩み」を展示し、啓発活動を行うとともに、地区内の小学校から「人権ポスター」、中学校から「人権標語」を展示してもらいました。

この作品の多くは、12月10日（日）に四日市市文化会館で開催される「じんけんフェスタ2023」の会場にも展示します。見逃された方はぜひ参加してください。

文化祭当日は、たくさんの方々に来場してもらい、同推協名物のブラバンづくりに参加してもらいました。みんなカードに思い思いの絵を描いたりして楽しい作品を仕上げてくださいました。



10月29日 西部ブロック人権講演会がありました。

四日市市人権同和教育推進連絡協議会西部ブロック人権講演会が、県地区担当により、きらら学園体育館で開催されました。反差別人権研究所みえ事務局次長の本江優子氏による「今、部落差別とは」と題した講演をしていただきました。

【参加者の感想】

- いままで「部落差別」という言葉は聞いたことはあるが、具体的な話は聞いたことがなかったので「本当にそんなことがあるのか。」と驚いてしまいました。講演を聞いて『無関心』『無知』ではいけない。気づいて学ぶことが大切。」と感じました。
- 「寝た子を起こすな」よく聞く言葉です。我々みなで、この言葉をなくし、いろいろ学び取り組む必要があると思いました。
- 差別をする人がいるから差別はなくなる。私が当事者であることを自覚し、学び続け、学んだことを発信できるようにしていきたい。

同推協啓発委員 募集中

啓発委員になっていただける方は市民センターロビーに設置してあるポストにお名前を記入して投函してください。（申込用紙は置いてあります。）お電話でも、FAX、メールでも構いません。啓発委員になっていただければ委員研修やイベントに参加したり、同推協の活動内容のお知らせを送らせてもらったりします。

【問合せ先】神前地区市民センター内 団体事務局 Tel・fax 327-1501（受付午後）

Email: kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp